

街と酒蔵を再び繋ぎ、新しい未来へ運ぶ

敷島の運船



はじめに

愛知県半田市亀崎町

酒蔵の背景



名城大学生田京子研究室では、かつて酒造業、漁業で栄えた半田市亀崎町を敷地に2018年から継続的に行っているプロジェクトである。このまちでは、少子高齢化が進み、かつての賑わいは街から消えてしまった。そこで2018年から、毎年生田研究室の学部3年生が亀崎に通い、リサーチや街の人たちとの対話を通して、街の問題、課題点を見つけ出し、アプローチしているプロジェクトである。亀崎町からの委託ではなく、学生たちが自主的に活動し、提案する場所も亀崎町の住民の方の承諾を得て、この街の未来を考えながら行っている。

街の人たちのお話を聞くなかで、20年前に閉業した日本酒を作っていた酒蔵が復活するという話を伺った。そこで酒蔵を復活させた伊東さんにお話を聞くと200年以上の歴史を持っていた酒蔵であったことがわかった。伊東さんによると、亀崎はかつては酒処として灘・伏見に次ぐ産地として名を馳せ、大正時代には百貨店や劇場が2つあるなど、文化的にも商業的にも賑わっていた地域であったそうです。そこで、伊東さんは醸造業や海運業、漁業などで栄えた酒蔵がある亀崎という地域の移り変わりを見て、伝統や地域を次の時代に繋ぎたいと思いから酒蔵を復活されました。



敷島の歴史

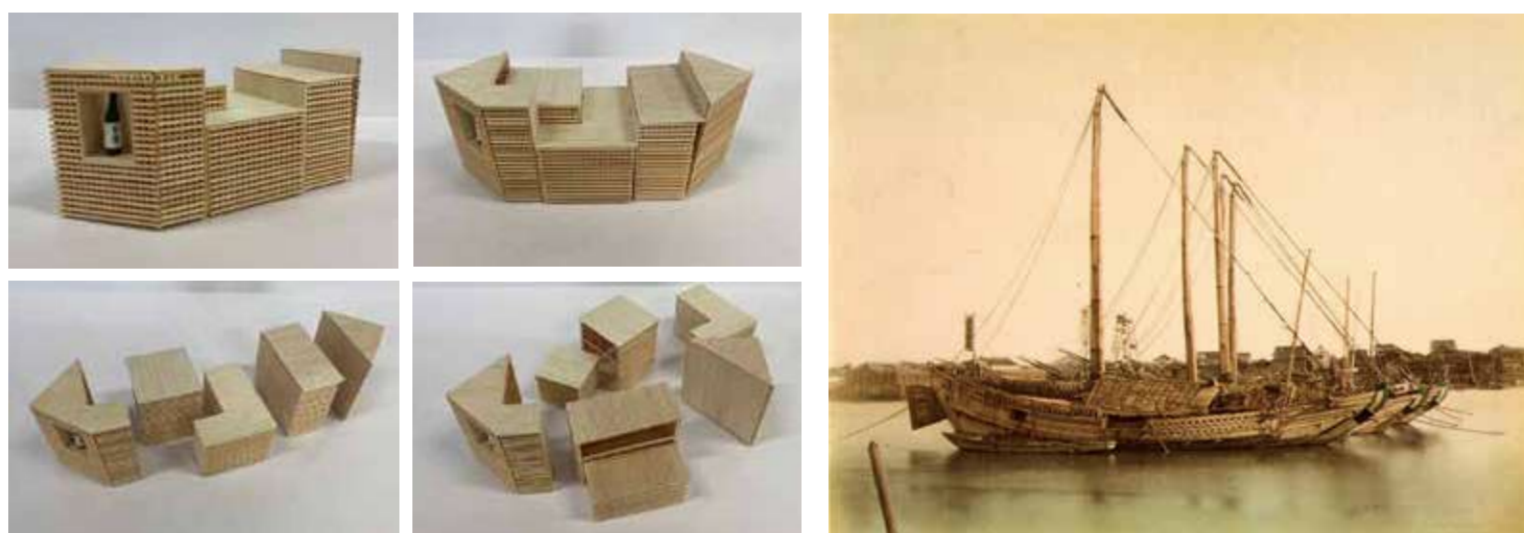


歴史を紡ぐデザイン

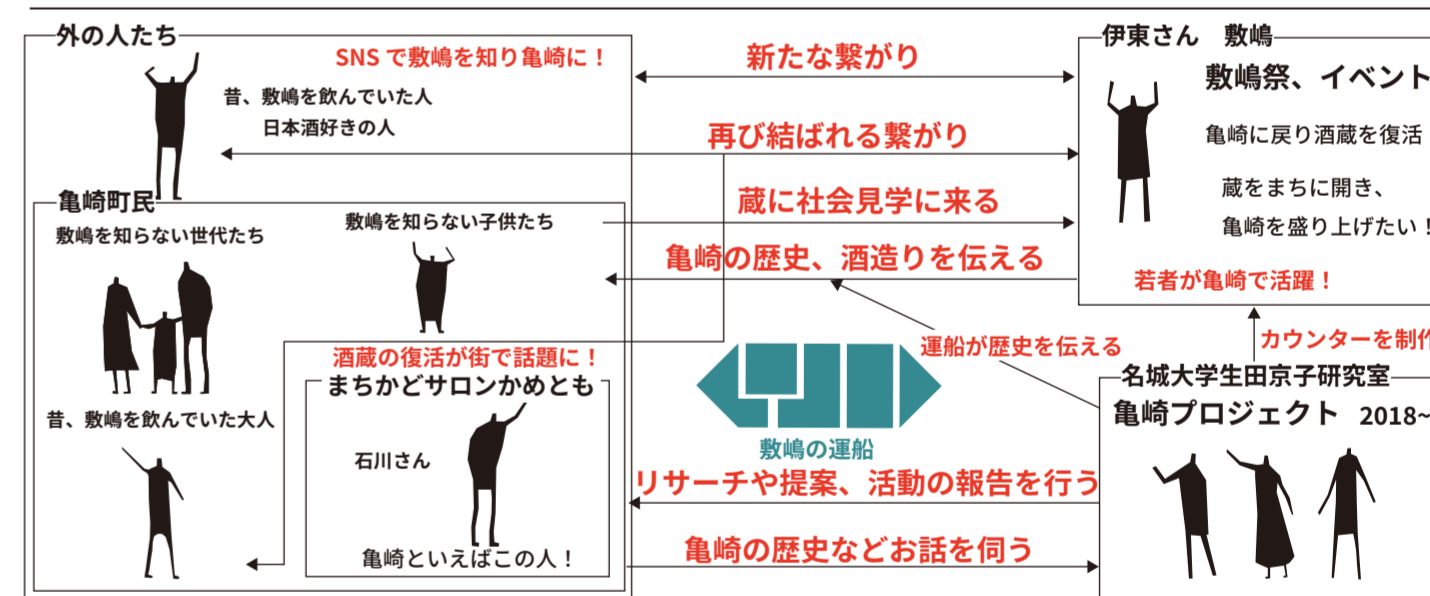
デザインコード 弁財船

中世末期から江戸時代、明治にかけて亀崎から江戸への酒の輸送に使われた弁財船。船に山積みした荷物を保護するため、格子状の『蛇腹垣』が利用された。

亀崎のお酒の歴史に深く関わった弁財船をデザインコードに、20年の空白から復活する敷島を後押しする。この船を利用して、敷島が亀崎の街ともさらに繋がり、多くの関係性を築いていくことを望む。



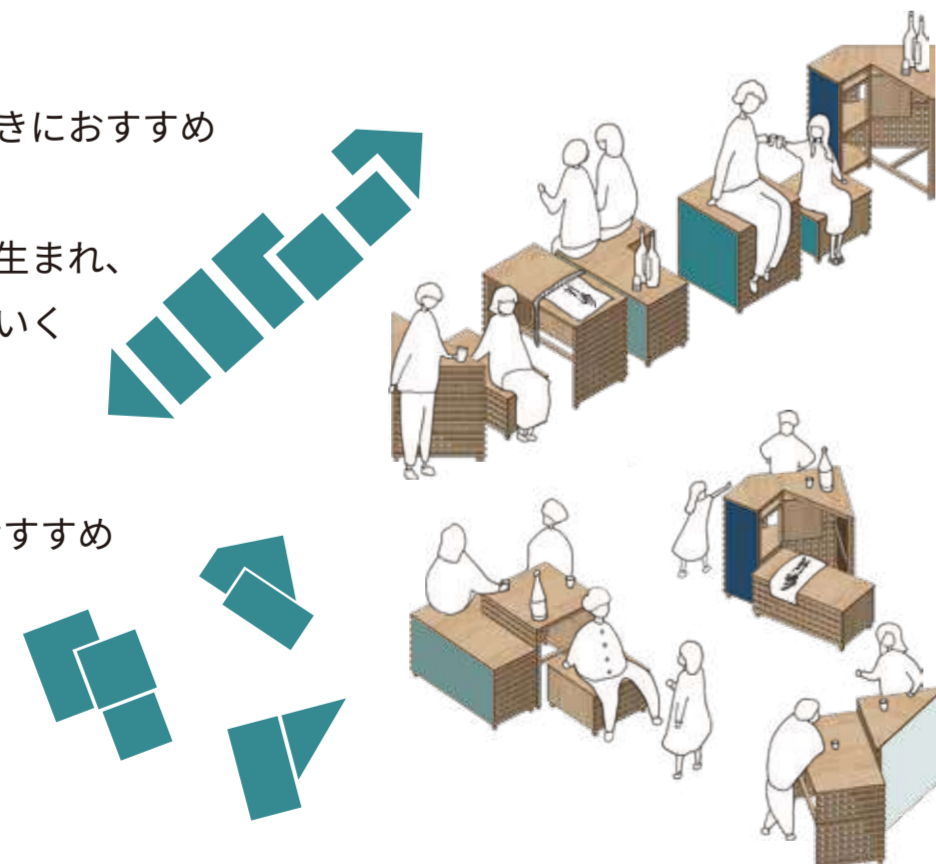
街や人と繋がるカウンター



パズルのような組み合わせ

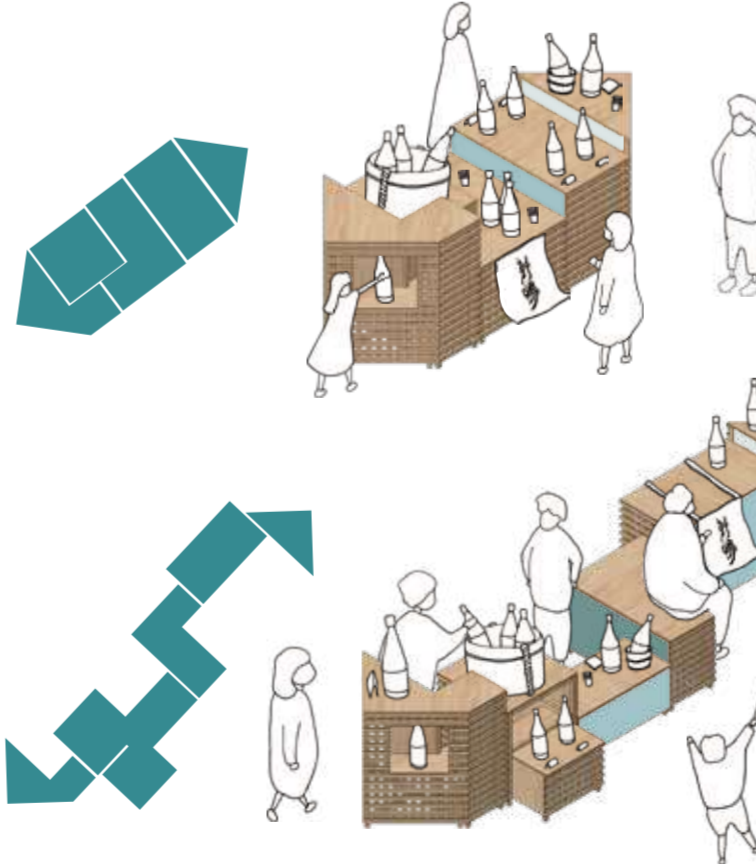
横長ベンチ

展示台に、人が入る隙も与えたいときにおすすめ
そのままの形で広げて置く
家具と家具の間に人が入るすき間が生まれ、
お酒と会話をを楽しむ様子が広がっていく



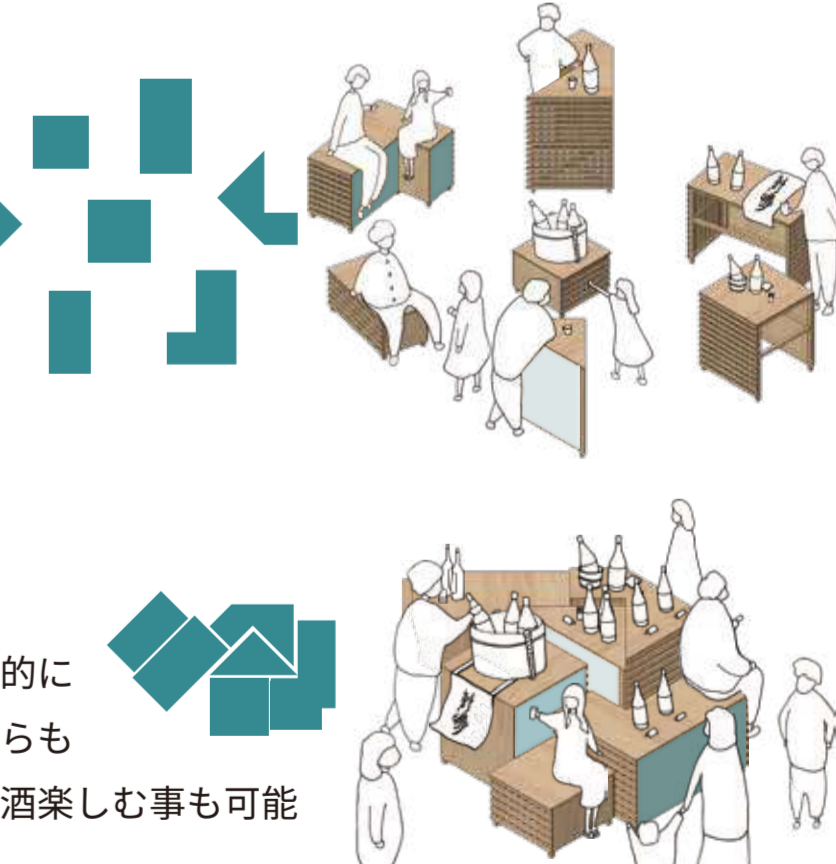
フネカウンター

船の形を見せながら展示台や
バーカウンターとして使用可能
船のシルエットを見ながらお酒を
飲むのはいかが？



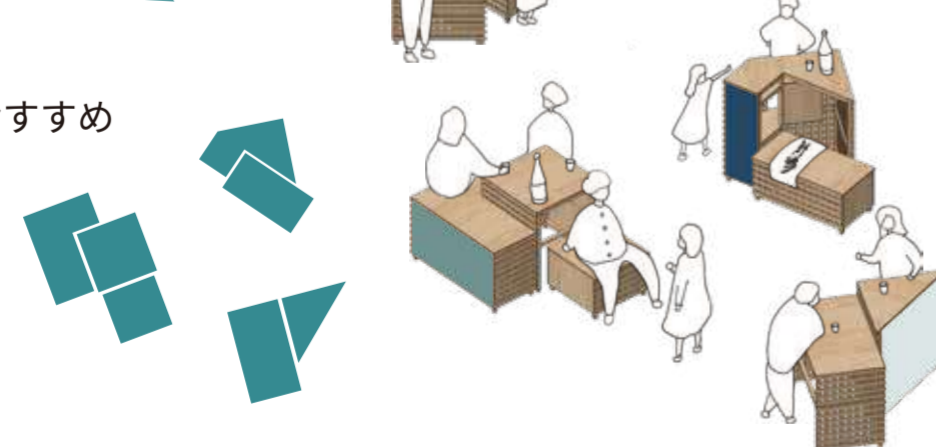
内向き配置

10人程度の集まりにおすすめ
中心性を持った配置で、
講演会をしたり、飲んだり
中庭に広げて人を呼び込む



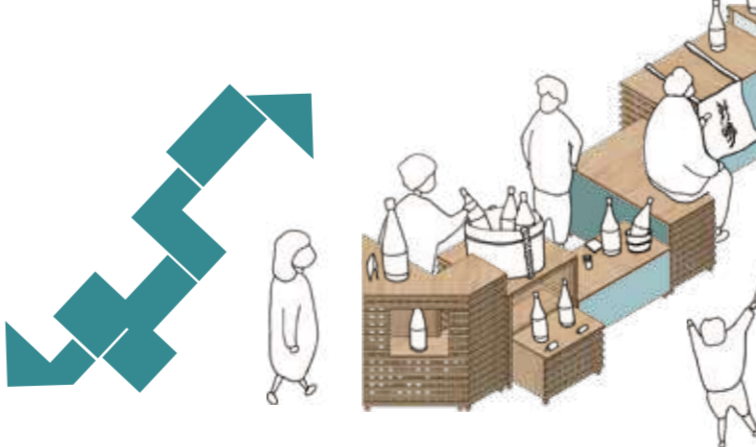
ジグザグ配置

グループごとに利用したいときにおすすめ
2、3個組み合わせる
組み合わせ方は自由自在で、
背もたれ付きベンチや
プライベートな空間をも作り出す



ヨコナガ配置

船を横長に並べることで
人が溜まる場所ができる
ゆっくりとおしゃべりをしながら
お酒を選んだり、作品を見たり？



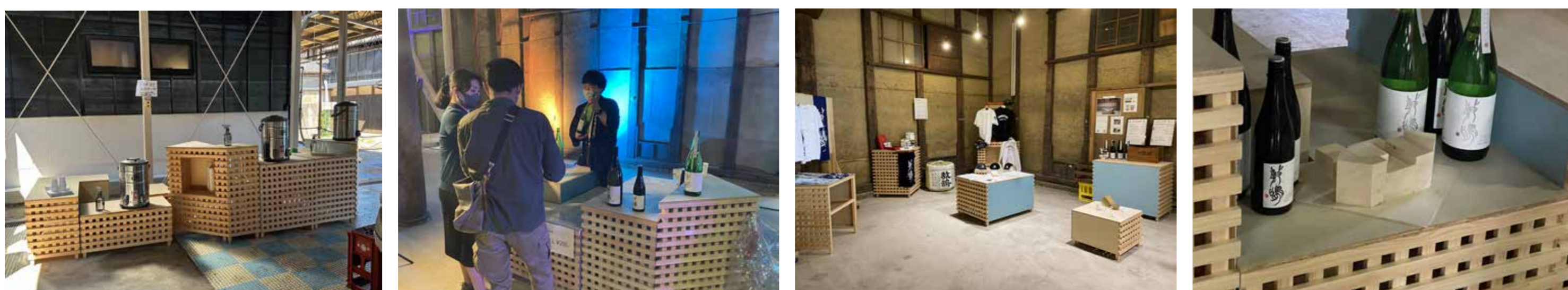
オブジェ型

中心を向いてる配置で
ここに置かれたものは注目の的に
それぞれ好きな場所にしながらも
みんなでシェアして飲んでお楽しみも可能



使われている様子

カウンターを伊東さんにお渡しした後、蔵ではいくつかのイベントが開かれました。イベントのたびにさまざまな使い方をさせていただいています。「敷島の運船」は、伊東さんがお酒を配るカウンターとして人との繋がりを作る場となったり、敷島グッズを展示する展示空間を生み出し敷島がいろんな人に認知されていくことを後押ししたりしています。これからも、伊東さんと敷島に地域や人の繋がりを運んでくる、そして日本全国に運んでいく船としてあり続けることを願っています。



伊東株式会社
<https://shikishima-ito.com>

@IKUTA_LAB_

代表者：松井 宏樹
233435009@ccmailg.meijo-u.ac.jp

